2023年度 私立大学入試

世界史

学校法人 河合塾 世界史講師　坂本 新一

1 私立大学入試の傾向と対策

近年の特徴的な出題傾向として、「世界史の中の日本」「ジェンダー」「グローバル化」「現代社会の諸問題」などが挙げられよう。また、「時間軸・空間軸」をふまえて、「史料・図版・グラフなど」を用いて出題する形式が増えている。これらの傾向をふまえて、今回は「食料・農業・人口」をテーマとした出題を取りあげた。

2023年の**立教大学・聖心女子大学**ともに、マルサスを解答させている(**例題1・2**)。**立教大学**の問題文では、飢餓が天災だけではなく、政治的な要因から助長されうることを示し、一方で**聖心女子大学**の問題文では、清朝の繁栄期に人口が増加したことに見合うだけの資源・生産力が不足していたことを示している。『新詳 世界史B』p.134では清代の人口についての説明があるほか、中国の人口動向を示すグラフも付されていた。『新詳 世界史探究』p.147では、コラムでいっそう説明が拡充し、「読み解き」として「清代に中国の人口が急増した要因を、コラムの本文をもとに複数挙げてみよう。」という学びの仕掛けが加わった。こうしたコラムを活用して、人口動態のテーマにも留意しておきたい。こうしたテーマは、今後さらに出題が増えることだろう。また、**立教大学**の問題文では、食料問題と合わせて感染症についても扱っており、感染症に関する出題は毎年続いている。『明解歴史総合』のp.183「FILE.9 感染症」では、モンゴル時代のペストから新型コロナウイルス感染症までの疫病の歴史を扱っており、歴史総合の学習で養われたネットワークの視点や、テーマごとに問いを設定する意識などは『新詳 世界史探究』へ向けた学習の土台となるだろう。

例題3の**関西学院大学**では、1930年代におけるウクライナの飢饉が扱われている。また、ウクライナを扱いつつ、クリミア半島の領有問題といった現代社会の諸問題と関連づけている。『新詳 世界史探究』p.290本文でスターリン時代に国民が耐乏生活を強いられたことの指摘があり、さらにコラムで「視点を変えて　時代によって変化するスターリンの評価」として、飢餓についての説明が拡充された。また、ロシアによるウクライナ侵攻については、『最新世界史図版 タペストリー二十一訂版』(以下、『タペストリー』)の巻頭17「特集　今、注目のトピックから世界史に迫る」が時事問題の対策となるほか、『タペストリー』p.285「現代を読みこむ　ロシア

■例題1　2023年度 立教大学：2月8日［2］

［2］ 人の生命や健康を守ることは、人類史上の普遍的なテーマである。人命を脅かす存在としてまず挙げられるのが食糧不足である。(　イ　)は18世紀末の著書『人口論』において、食糧の増産は人口の増加に追いつかず、人口増加によって食糧危機が発生する可能性が高いと論じた。
(略)
飢餓は政策やその失敗によって生み出されることもある。ナチス＝ドイツは独ソ戦の開始後、占領地の食糧をドイツに送り、占領地のスラヴ人やユダヤ人の間での飢餓を意図的に発生させる「飢餓計画」を実行した。中国では毛沢東が発動した大躍進運動において、農業の生産向上を目指し、行政と経済を一体化した(　ロ　)と称する集団農場の組織を農村に導入したが、運動は失敗して逆に大量の餓死者を出した。
そしてもう1つ、生命に対する大きな脅威が感染症である。(略)

正解：(　イ　)マルサス　(　ロ　)人民公社

■例題2　2023年度 聖心女子大学：2月1日［3］B

［3］B 清の人口は17世紀の1億人台から18世紀末の3億人に増え、19世紀には4億人を超えた。(6)資源や生産力が急激な人口成長を支えられなかったことから、中国社会は不安定化し、19世紀半ばには各地で反乱が頻発した。(略)

問8. 18世紀末に下線部(6)のような事態を恐れて、自国で人口調整の必要性を訴えたイギリスの経済学者とは誰か。その姓をカタカナで書きなさい。

正解：**問8.** マルサス

■例題３　2023年度 関西学院大学：２月３日［３］

［３］（略）　クリミア半島がロシア共和国からウクライナに委譲されたのは第二次世界大戦後、フルシチョフ第一書記の時代だった。1991 年にウクライナが独立した際にも、クリミアの国家帰属は対立を招いていた。

第二次世界大戦終結に至るまでウクライナは、ソ連の中で悲劇的な経験を重ねていた。1930 年代前半には、強行された⑥農業の集団化と穀物の収奪のために、隣接諸地域とともにウクライナでも数百万ともいわれる餓死者が出た。さらに、第二次世界大戦時の独ソ戦の舞台としても膨大な犠牲者を出した。凄惨な戦争の終結に向けた協議のため、1945 年 2 月に連合国首脳が集った［　ロ　］は、当時はまだロシア共和国内のクリミア半島の景勝の地だった。

［語群］ロ
a. カイロ　b. ポツダム　c. ヤルタ　d. テヘラン

⑥　農業の集団化に関する記述として、誤りを含むものはどれか。
a. 第 1 次五カ年計画によって推進された。
b. 集団化により新たな経済体制の構築を目指す政策はネップと呼ばれる。
c. 集団農場コルホーズでは、土地や家畜の共有化が行われた。
d. 国営農場ソフホーズは大規模で、農業経営のモデルとされた。

正解：［　ロ　］　c　　⑥　b

のウクライナ侵攻がもたらしたヨーロッパへの影響」では、NATO 加盟問題や資源問題にまで観点を広げており、入試対策として有益だろう。

例題４の**東京女子大学**では、中世ヨーロッパにおける大開墾の時代を扱っている。技術革新の例として重量有輪犂（ゆうりんすき）を問うているが、単に語句を書かせるのではなく、重量有輪犂の理解を前提として「ベリー公のいとも豪華なる時禱書」の図版を出題し、重量有輪犂が描かれている３月（**え**）を選択させている。『タペストリー』p.147 では「ベリー公のいとも豪華なる時禱書」の３月の絵画が掲載されており（**図**）、日々図版を用いた学習をしてきた受験生には有利だったであろう。また、『新詳 世界史 B』p.101 では重量有輪犂の図版が示されており、『新詳 世界史探究』p.110 では、さらに「読み解き」として「中世の農業にみられる工夫を図のなかから探し出そう。」という課題が設定された。こうした課題を通じて、図版の読み解きのポイントを習得したい。

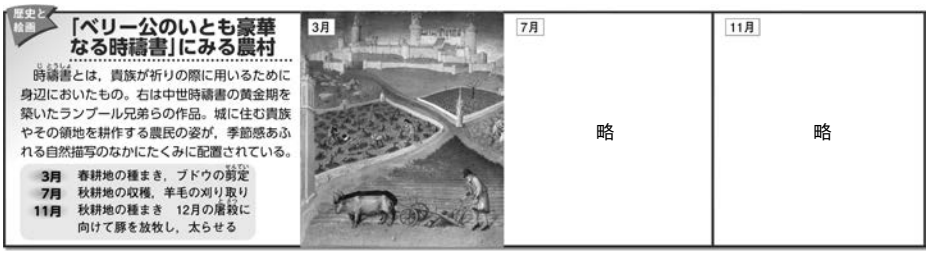

図　歴史と絵画コラム（『タペストリー』p.147）〈写真提供 ユニフォトプレス〉

■例題４　2023年度 東京女子大学：現代教養学部［２］

［２］（略）　ピレネー山脈とアルプス山脈の北側は北西ヨーロッパとされる。この地域は大西洋の暖流や偏西風の影響で冬でも比較的温暖である。深い森林に覆われている場所もあったが、⑤中世を通じて開墾がすすみ、家畜を使う農業を発展させるなかでヨーロッパ世界の中心となった。（略）

問５．11 世紀になると気候が温暖になり、外部勢力の侵入による混乱もおさまった北西ヨーロッパでは社会が安定した。そして、下線部⑤にあるような大開墾の時代が 13 世紀前半にかけて展開したとされる。この時期の農業発展を可能にした技術革新のひとつに、アルプス以北の湿って重い土壌を深く耕す際に力を発揮する農具の導入があった。これが使用されている場面がみえるのは、下の図版（あ）～（え）のどれか。１つ選んで記号で答えなさい。

（あ）：10 月　（い）：６月　（う）：９月　（え）：３月（図版は省略）

正解：問５（え）

■例題５　2023年度 早稲田大学：人間科学部［４］

［４］　⑦　人間と地球環境との関係について述べた以下の文のうち、誤りを含むものはどれか。

a．12 世紀以降のヨーロッパでは、シトー（派）修道会などを先頭として、森林を切り開いて耕地とする開墾運動が盛んになった。
b．地球上では気候変動が度々起きており、例えばヨーロッパでは、中世の温暖期を経て、近世から 19 世紀にかけて、小氷期と呼ばれる寒冷期があった。
c．レイチェル＝カーソンが著した『沈黙の春』は、農薬が生態系に与える影響に警鐘を鳴らし、自然環境の保護に意識を向けさせた。
d．1997 年にアメリカ合衆国の主導により、温室効果ガス削減の目標数値を定めた京都議定書が採択された。

正解：⑦　d

2023 年の**早稲田大学**人間科学部は、人間と地球環境との関係を出題した（例題５）。選択肢の a で、中世ヨーロッパにおけるシトー派の開墾運動について出題しているほか、温暖期・寒冷期、レイチェル＝カーソン、京都議定書などの理解が問われている。今回紹介した「食料・農業・人口」といったテーマは、環境問題への意識の高まりを受けて、他の重要テーマと関連しながら、引き続き入試問題で出題されることだろう。